

公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

ご 案 内

JATAFFとは

わが国の農林水産業、食品産業、その他これらに関連する産業の発展に資するために、産学官の連携と広範な業際的交流を通じ、農林水産・食品分野における試験研究及び革新的な技術開発並びに情報交流の促進に関する支援等を総合的に行い、農林水産・食品分野におけるイノベーションの促進及び産業の振興に寄与することを目的としています。

このため、農林水産・食品分野における技術開発に関して、産学官を結ぶ架け橋の役割を果たしつつ、農林水産・食品分野における次のような事業を進めています。

- 1 試験研究、革新的技術開発及びこれらの産業化に関する調査研究、情報収集・提供、関係機関への提言、国際交流
- 2 研究開発の企画・促進・支援
- 3 試験研究に関し功績のある者の表彰
- 4 研究成果の移転・普及・試験評価
- 5 技術開発に関する講演会・研修会の実施

公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会 (JATAFF)

Japan Association for Techno-innovation in Agriculture, Forestry and Fisheries

1. 産学官連携による研究開発と社会実装の促進

□「知」の集積による産学連携支援

「知」の集積による産学連携支援事業において、高度な専門的知識を有するコーディネーター約 140 名を全国に配置し、地域における出口を見据えた農林水産・食品分野の産学連携活動を一体的に支援しています。こうした取組を通じて、民間企業を含む多様な機関の参画を促し、農林水産・食品分野におけるイノベーションの促進、産業競争力の強化、新産業の創出を目指します。

◆技術交流展示会（フェア）、セミナー等の開催や開催支援

例：アグリビジネス創出フェア、アグリ技術シーズセミナー

◆技術シーズの発掘、技術開発ニーズの把握とマッチング支援

例：育種や栽培、植物工場、食品加工など農林水産・食品分野の様々な研究開発における民間企業と研究機関とのマッチング等

◆研究開発プロジェクトの企画、実施、申請や運営の支援

例：イノベーション創出強化研究推進事業、生産性革命に向けた革新的技術開発事業

◆「知」の集積と活用場による研究開発プラットフォームの管理運営および支援

例：次世代育種技術研究開発、農林水産・食品産業ファインバブル研究開発、Society5.0 の実現に向けたデータ駆動型ソリューション研究開発、スマート農業新サービス創出

◆分野別フォーラムの開催

例：先端技術フォーラム、農業 MOT フォーラム

□フェーズ3 基金事業による社会実装の促進

中小企業イノベーション創出推進基金（フェーズ3 基金）を活用して、革新的な研究開発を行う中小企業（スタートアップ等）による大規模技術実証（フェーズ3）を支援し、スタートアップ等の有する先端技術の社会実装の促進を図っています。

2. 先端技術の研究開発と産業化の推進

□スマート農業実証プロ事業の運営・進行管理支援

農林水産省の事業として農研機構が令和元年度から実施しているスマート農業実証プロ事業において実施課題の審査支援、採択課題の進行管理支援等を行っています。

□東日本大震災の被災産地の農林水産業復興の支援

「農林水産分野の先端技術展開事業」において、専門PO（プログラムオフィサー）の配置を通じて、先端技術による東日本大震災の被災産地の農林水産業復興・創生を、技術開発・社会実装面から支援しています。

□ゲノム編集等の次世代育種技術の社会実装

戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）において、ゲノム編集等の次世代育種技術の社会実装を目指して、技術的課題に関する情報の発信、国民的理解増進のための活動を行っています。

3. 研究成果の生産現場と産業界への移転促進

□植物新品種の開発・保護・活用の推進

- ◆植物品種等海外流出防止総合対策事業等において、海外における品種登録出願費、種苗資源の保護、DNA 判別技術の高度化、育成者権侵害対応に係る経費の支援を実施しています。
- ◆農業知的財産保護・活用支援事業において、育成者権の保護、対策の支援、知的財産相談窓口を実施しています。
- ◆「植物品種保護戦略フォーラム」及び「新品種産業化研究会」の事務局として、育成者権の侵害対策や活用、植物新品種の産業化を支援しています。

□政策提言

植物品種保護、種苗産業振興等のあり方に関し、農林水産省等に対して意見を具申します。

□専門部会活動

「安全性・品質保証部会」「糖質・澱粉新技術部会」「食と健康部会」を設置し、食品関連に関わるテーマを中心に、関係業界、関係府省と会員との情報交換を行っています。

□生産現場での技術普及を目的とした試験研究

- ◆「新稲作研究会」の運営を通じて、低コスト稲作、水田高度利用、野菜果樹作の機械化栽培体系の確立と普及のための試験や展示圃事業を実施しています。
- ◆会員企業からの要請に基づき、稲の民間育成品種等の評価試験を関係試験研究機関に委託して実施しています。

4. 技術開発に功績ある者の表彰事業

農林水産省が実施する農業技術功労者表彰、民間部門農林水産研究開発功績者表彰及び若手農林水産研究者表彰の共催または協賛を行っています。

- ◆ 農業技術功労者表彰 (昭和 19 年度～)
- ◆ 民間部門農林水産研究開発功績者表彰 (平成 12 年度～)
- ◆ 若手農林水産研究者表彰 (平成 17 年度～)

5. 農林水産・食品分野の技術に関する情報の収集分析と多様な情報発信等

- ◆技術情報交流セミナーの開催
- ◆月刊誌「JATAFF ジャーナル」の発行
- ◆メールマガジン「JATAFF ニュース」の配信
- ◆ホームページによる情報発信
- ◆農林水産技術同友会の事務局
- ◆全国農業関係試験研究場所長会の事務局

法人の概要

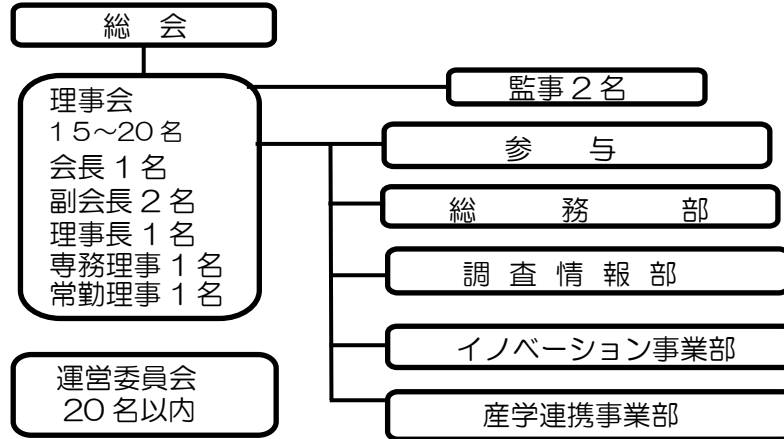
【所在地】 〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目2番1号
日土地内幸町ビル2階

T E L 03-3509-1161 F A X 03-3509-1165

【設立】 平成2年10月16日（社団法人農林水産先端技術産業振興センター）

【会員数】 正会員 77 賛助会員 180（令和7年6月17日現在）

【組織図】



【役員】（理事 17名 監事 2名）

代表理事 会長 石川 文保（公益財団法人ヤクルト・バイオサイエンス研究財団理事長）

副会長 岩間 清（日本ハム株式会社 中央研究所 所長）

副会長 加々美 勉（株式会社サカタのタネ 取締役常務執行役員）

代表理事 理事長 藤本 潔（常勤）

【職員】 33名（令和7年4月1日現在）

【沿革】

平成2年10月16日 社団法人農林水産先端技術産業振興センター(STAFF)として創立

平成3年11月1日 農林水産先端技術研究所(STAFF 研究所)設立（つくば）

平成14年10月 「植物品種保護戦略フォーラム」設立（STAFF が事務局）

平成16年12月 イネゲノム完全解読（STAFF 研究所が大きな貢献）

平成20年11月 「新品種産業化研究会」設立（STAFF が事務局）

平成22年2月 「農林水産・食品産業マイクロ・ナノバブル技術研究組合」設立（STAFF が事務局）

平成24年2月15日 社団法人農林水産技術情報協会（昭和52年設立）と合併
社団法人農林水産・食品産業技術振興協会(JATAFF)と改称

平成25年4月1日 公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会へ移行

平成29年4月 農林水産先端技術研究所廃止（建物等を農研機構へ寄附）

令和3年3月 「農林水産・食品産業マイクロ・ナノバブル技術研究組合」解散

令和5年3月 「新品種産業化研究会」解散

公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

Japan Association for Techno-innovation in Agriculture, Forestry and Fisheries
(JATAFF)

<問い合わせ先>

〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目2番1号 日土地内幸町ビル2F

電話：(03)3509-1161 FAX：(03)3509-1165

ホームページ <https://www.jataff.or.jp>